

第7回「ぼくたちの地球を守ろう」小学生・中学生作文コンクール  
第1回「環境ポスターコンクール」  
第4回「アジアこども会議」

報 告 書

期間 1997年1月6日(月)～1997年8月1日(金)

主催 地球こどもクラブ

後援 環境庁 文部省 外務省 毎日新聞社 毎日小学生新聞 毎日中学生新聞  
NHK TBS

協力 北京市教育委員会外事処 ソウル特別市教育庁 ケハティ(インドネシア)  
フレッド・シップ・フォース・オブ・バンコク フレッド・シップ・フォース・オブ・インドネシア

協賛 会員企業各社 全日本空輸(株)

「ぼくたちの地球を守ろう」作文コンクール  
運営組織図

主催／地球こどもクラブ

後援／環境庁 文部省 外務省 毎日新聞社 毎日小学生新聞  
毎日中学生新聞 NHK TBS

協力／北京市教育委員会外事処 ソウル特別市教育庁 ケハティール（インドネシア）  
フロンティア・フォー・オブ・バンコク フロンティア・フォー・オブ・インドネシア

協賛／東京電力（株） 三井物産（株）（株）アルビオン 富士ゼロックス（株）  
安田海上火災保険（株）（株）日立製作所（株）東芝 日本電気（株）  
東京ガス（株） 三菱重工業（株）関西電力（株） 東北電力（株）  
中部電力（株） 日本電信電話（株）（株）NTTメディアスコープ 清水建設（株）  
大成建設（株） 鹿島建設（株） 鉄建建設（株）（株）スプリングス  
日本マクドナルド（株） 日本鋼管（株） 日本テレコム（株）  
東電環境エンジニアリング（株）（株）井田企画

特別協賛／全日本空輸（株）

## はじめに

1991年、環境庁創立20周年記念事業としてスタートした「ぼくたちの地球を守ろう」小学生・中学生作文コンクールは、今回で7回目を迎えました。

このコンクールは、21世紀を担う子供たちを対象に、環境保全についての意見や活動報告を作文という形で募集します。「今をどのように受け止め、感じているのか」自分の考えを発表する場を与えると共に、作文を書くことによって改めて地球環境の問題について考えてほしいと企画しています。

さらに本年より、表現方法を変え「環境ポスター」の応募も受け付けました。

1992年は6月に開催された環境サミットに併せ、ブラジルの子供たちにも募集を呼びかけ、昨年第6回は中国・韓国・インドネシア・タイの子供たちに、そして今年度第7回は新たにインドを加え、6ヶ国の子供たちがコンクールに参加したくれました。

応募総数は前回は上回る4,389作品でした。年々全国的な拡がりを見せており、今回は学校単位での応募、また、学習塾からの応募もいただきました。

7月31日（木）東京・一ツ橋の如水会館にて作文コンクール名誉総裁の高円宮両殿下をお迎えし、「授賞式」と「第4回アジアこども会議」を開催いたしました。当日、NHK午後7時の全国ニュースで紹介され、さらに毎日学生新聞などでも取り上げられました。

「第4回アジアこども会議」は、海外の入賞者の訪日を記念して開催いたしました。自分の住んでいる街の環境についての報告や、活動していることなどについての意見交換が行われました。

以下、詳細をご報告申し上げます。

## 第1部

第7回作文コンクール授賞式

第1回環境ポスターコンクール授賞式

## 第7回作文コンクール授賞式

### 1 応募要項 第7回「ぼくたちの地球を守ろう」小学生・中学生作文コンクール

テーマ	「ぼくたちの地球を守ろう」 環境保全問題に関する考えをまとめる
賞	高田宮賞 (小・中各1名) 環境庁長官賞 (小・中各1名) 優秀賞 (小・中各2名) 地球子どもクラブ賞 (小・中各2名) 特別賞 (若干名)
審査基準	地球環境に対する純粋で素直な表現力と視点を競う
審査委員長	江森 陽弘 (ジャーナリスト/元朝日新聞編集委員)
審査委員	赤池 幹 (毎日小学生・中学生新聞編集長) 山谷えり子 (サンケイリビング新聞編集長/生活ジャーナリスト) 森 ミドリ (音楽家/エッセイスト) アグネス・チャン (歌手/エッセイスト) 長沢 光男 (ジャーナリスト/元朝日新聞編集委員) 浅井 清恵 (千葉県御宿中学校教諭) 杉山 多恵 (環境庁環境企画調整局環境保全活動推進室・環境学習専門官)
応募資格	小学4年生から中学3年生まで
応募方法	400字詰原稿用紙 3枚以内 中国語・韓国語・インドネシア語・タイ語・インド語 上に同じ 作品書き出しに作品名/氏名/学校名記入 作文用紙裏に氏名・連絡先・年令・国籍を記入
応募先	〒107東京都港区赤坂7-10-9 赤坂伊藤ビル6F 地球子どもクラブ「ぼくたちの地球を守ろう作文コンクール」係
応募締切	日本語作品：1997年4月30日 (当日消印有効) 外国語作品：1997年3月30日必着
注 意	応募作品は返却できませんのでご了承下さい。また、作品の著作権・所有権は地球子どもクラブに帰属します。
発 表	入賞者には事務局より直接ご連絡致します。 新聞・雑誌「SOLA」紙上他
授賞式	1997年7月31日 (木)
主 催	地球子どもクラブ
後 援	環境庁・文部省・外務省・毎日新聞社・毎日小学生新聞・毎日中学生新聞・NHK・TBS
協 力 特別協賛	北京市教育委員会外事処・ソウル特別市教育庁・ケハティ・フルトシップフォース 全日本空輸 (株)

## 2 授賞式（作文／ポスターコンクール）

日 時 1997年7月31日（木）  
午後1時30分～2時45分

場 所 如水会館（東京都千代田区）  
松風の間にて

出席者 来賓 高円宮両殿下（作文コンクール名誉総裁）  
（敬称略） 石井 道子（国務大臣・環境庁長官）

近藤 次郎（地球子どもクラブ会長）  
石井 吉徳（地球子どもクラブ監事／国立環境研究所所長）  
渡辺 芳也（地球子どもクラブ理事／三井物産株式会社）  
萩谷 邦夫（地球子どもクラブ理事／富士ゼロックス株式会社）  
愛知 絢子（地球子どもクラブ理事／愛知和男代理）  
田子 公道（地球子どもクラブ理事／日本マクドナルド株式会社）  
小川 正樹（地球子どもクラブ理事／中部電力株式会社）  
工藤 順一（地球子どもクラブ会員／日本テレコム株式会社）  
岡崎 友紀（地球子どもクラブ理事／女優）

審査員長 江森 陽弘（ジャーナリスト／元朝日新聞編集委員）  
審査員 杉山 多恵（環境庁・環境学習専門官）  
森 ミドリ（音楽家／エッセイスト）  
浅井 清恵（千葉県御宿中学校教諭）  
長沢 光男（ジャーナリスト／元朝日新聞編集委員）

入賞者 作文 22名 ポスター 2名 計24名  
マスコミ NHK／毎日新聞社  
スタッフ 10名

進 行 午後1時30分、高円宮両殿下をお迎えし「授賞式」が開会致しました。  
地球子どもクラブ会長 近藤次郎氏の開会の挨拶のあと、高円宮殿下より  
お言葉を頂きました。続いて石井道子環境庁長官より祝辞が述べられ、授  
与に移りました。

本日は、受賞者24名全員出席で、特別賞の中国・韓国・インドネシア・  
タイ・インドの子供たちは、授賞式出席のため訪日しました。

最後に江森陽弘審査委員長より審査の総評があり、「文章力の向上が認め  
られる」との感想が述べられました。

閉会后、受賞者は高円宮両殿下と共に記念撮影をしました。

### 3 入賞者一覧

#### 【作文】

高円宮賞	梶島 英史 (静岡県浜松市立鴨江小学校 4年) 村瀬 玄悟 (愛媛県今治市立日吉中学校 1年)
環境庁長官賞	小林 聖典 (石川県金沢市立泉野小学校 4年) 齋藤 久美 (千葉県御宿町立御宿中学校 1年)
優秀賞	小林 優 (千葉県浦安市立北部小学校 4年) 鈴木茉莉子 (新潟大学教育学部附属長岡小学校 5年) 梶島 郁里 (静岡県浜松市立西部中学校 2年) 扇原 相子 (神奈川県横浜市立瀬谷中学校 3年)
地球こどもクラブ賞	寺島 瑞実 (新潟大学教育学部附属長岡小学校 5年) 福島 琢也 (静岡県浜松市立入野小学校 5年) 長谷川顕子 (福井大学教育学部附属中学校 1年) 上野 智子 (徳島県池田町立池田中学校 3年)
特別賞	ツウ・イーフェイ (中国/小学校 6年) ツイ・イン (中国/中学校 1年) チャン・ウジョン (韓国/小学校 6年) カン・ユミ (韓国/中学校 2年) リスカ・インキ・フィットリア (インドネシア/小学校 6年) グピタ・ナレスワリ (インドネシア/小学校 6年) サーイルディ・チャトゥランタブッ (タイ/小学校 5年) アピナン・ウタイパイサーンウォン (タイ/中学校 3年) アクシェイ・カートリ (インド/小学校 5年) ソーナ・ジョリ (インド/中学校 3年)
【環境ポスター】	
最優秀賞	高橋 万寿 (千葉県松戸市立殿平賀小学校 4年) 牧野 友香 (千葉県御宿町立御宿中学校 2年)

#### 4 作文／ポスターコンクール入賞記念品

高円宮賞 商品券 5万円分 / 文具 / 時計

環境庁長官賞 商品券 3万円分 / 文具 / 時計

優 秀 賞 商品券 2万円分 / 文具 / 時計

地球こどもクラブ賞 商品券 1万円分 / 文具 / 時計

特 別 賞 文具 / 時計

最優秀賞（ポスター） 商品券 2万円分 / 文具 / 時計

## 5 調査結果

応募総数 4,389 作品の内訳は、次頁のとおりです。

募集告知に対する各マスコミの拡がりや、全国都道府県の教育委員会のご協力により、応募数の増加や地域の拡がりが増えたものとなって参りました。また、直接学校に対して応募の呼びかけを行ったことが、応募総数の増加につながっていると考えられます。

作品の内容としては、大きく三つに分類することが出来ます。『水と空気』『ゴミ問題』『動・植物との共存』これらについての作文が最も多く見られました。

### 小学生部門

実際に活動している内容が多く見られました。学校やクラス単位の活動、地域の活動に参加したときの体験談、家庭での取り組みなど、具体的でその時の感想が率直に表現されています。活動内容としては、「空き缶拾い」が最も多く、続いて「地域清掃」「リサイクル」についてなど。

また、「ダイオキシン」に関する内容も多く、不安を訴える子供たちが多数いたのが今回の特徴といえます。地域の川や湖などを大切に守って行きたいと願う気持ちが伝わってくる作品も多かったようです。

### 中学生部門

年齢的に個人レベルで行動していることが目立ちました。例えばボランティア活動に参加して友人に広めたり、小学生の時に始めた課題を中学生になった今、本格的に研究したりしています。

文章力の優れた作品が多く見られたのも嬉しいことでした。イヌイットの人の言葉と庭の草花から環境問題へと展開する作品や、美しい町並みが作文を読んでいる人の中にも浮かんでくるような作品。

環境問題を身近に捉え、真剣に考えている様子が伝わってきました。将来の夢として、環境保全に役立つ研究者になりたいなど、頼もしい意見が男女問わず数多くありました。

世界の日本人学校からの作品は、ヨーロッパなど環境保全に熱心な国からは学ぶところが多くありました。

第7回「ぼくたちの地球を守ろう」小学生・中学生作文コンクール

応募総数

総 数 4389通

日本語部門 4117通

外国語部門 272通

国 内 3814通

日本人学校 303通

中 国 102通

韓 国 47通

インドネシア 17通

タ イ 48通

イ ン ド 58通

第7回作文 応募集計表一1

県名	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小 中		合計
							小	中	
北海道	15	60	57	8	16	51	132	75	207
青森	12	15	9	21	24	6	36	51	87
岩手	10	13	11	12	18	0	34	30	64
宮城	3	42	14	9	7	13	59	29	88
秋田	0	7	2	9	5	5	9	19	28
山形	2	11	8	2	2	6	21	10	31
福島	12	6	17	4	5	31	35	40	75
茨城	28	38	53	2	11	1	119	14	133
栃木	14	21	3	11	25	4	38	40	78
群馬	0	17	129	3	5	17	146	25	171
埼玉	13	45	79	12	23	42	137	77	214
千葉	4	2	0	18	3	14	6	35	41
東京	7	9	2	14	18	16	18	48	66
神奈川	2	2	4	0	4	13	8	17	25
新潟	8	20	8	11	9	5	36	25	61
富山	10	13	7	9	13	4	30	26	56
石川	6	24	22	38	12	15	52	65	117
福井	3	21	47	11	0	1	71	12	83
山梨	4	6	18	5	10	7	28	22	50
長野	9	3	8	5	18	4	20	27	47
岐阜	5	3	9	32	17	2	17	51	68
静岡	12	10	16	0	19	127	38	146	184
愛知	14	17	20	18	4	19	51	41	92
三重	7	10	16	4	8	2	33	14	47

第7回作文 応募集計表 - 2

県名	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小中		合計
滋賀	11	18	21	13	7	4	50	24	74
京都	9	17	23	10	10	6	49	26	75
大阪	22	27	15	11	3	1	64	15	79
兵庫	14	47	14	9	13	8	75	30	105
奈良	10	6	5	1	1	0	21	2	23
和歌山	8	5	12	3	15	4	25	22	47
鳥取	10	2	6	23	16	0	18	39	57
岡山	19	10	22	0	2	18	51	20	71
島根	6	8	15	14	23	9	29	46	75
山口	9	6	32	5	2	13	47	20	67
広島	15	27	17	11	159	14	59	184	243
徳島	16	22	25	4	2	13	63	19	82
香川	26	13	11	7	5	7	50	19	69
愛媛	0	1	18	6	0	14	19	20	39
高知	2	39	3	13	18	8	44	39	83
福岡	14	27	17	9	5	5	58	19	77
佐賀	0	0	4	1	1	2	4	4	8
長崎	3	18	51	12	6	10	72	28	100
熊本	17	3	20	5	14	9	40	28	68
大分	7	12	54	6	3	8	73	17	90
宮崎	4	6	3	28	25	17	13	70	83
鹿児島	5	1	11	9	6	21	17	36	53
沖縄	2	2	8	10	7	4	12	21	32
合計	429	732	966	468	619	600	2127	1687	3814

第7回作文コンクール  
応募状況（日本人学校）

国名	学校名	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
アメリカ	中部テネシー 日本語補習校	8		2				10
アメリカ	ダラス日本語 補習授業校	11						11
ブラジル	サンパウロ 日本人学校	1				2		3
ベネズエラ	カラカス 日本人学校					2	1	3
インドネシア	ジャカルタ 日本人学校					108	72	180
ルーマニア	ブカレスト 日本人学校	2						4
オランダ	アムステルダム 日本人学校			25	27	21	17	92
合計	6カ国/7校	22	4	27	27	133	90	303

## 第2部

### 第4回アジアこども会議

## 第4回「アジア子ども会議」

日 時 1997年7月31日(木)  
午後3時00分～4時30分  
場 所 如水会館(東京都千代田区)  
富士の間にて

テーマ 「水と空気」「ゴミ問題」「動・植物との共存」について

来 賓 高田宮両殿下  
(敬称略) 石井 道子環境庁長官

近藤 次郎(地球子どもクラブ会長)  
石井 吉徳(地球子どもクラブ監事)

出席者(子ども) 作文コンクール入賞者 22名  
ポスターコンクール入賞者 2名

(大人) 江森 陽弘(作文審査委員長)  
赤池 幹(作文審査員)  
浅井 清恵( )  
長沢 光男( )  
杉山 多恵( )  
岡崎 友紀(地球子どもクラブ理事)  
渡辺 芳也( )  
田子 公道( )  
伊藤 哲夫(環境庁 環境保全活動推進室長)

(進行役) 森 ミドリ(作文審査員)  
椛島 頌一(地球子どもクラブ/子ども会員)

進 行

午後3時、高円宮兩殿下、石井環境庁長官をお迎えして第4回「アジア子ども会議」を開催いたしました。地球子どもクラブ 近藤次郎会長の開会のあいさつのあと、進行役の森ミドリさん、椛島頌一君の自己紹介があり、議事進行となりました。

本年は6ヶ国の子供たちが集い、自分の書いた作文又はポスターのテーマについて討議しました。今回新しい試みとして、『水と空気』『ゴミ問題』『動植物との共存』をそれぞれのテーマとする三つのテーブルに分かれて話し合いました。会議では、前日に行った環境施設の視察についての感想や意見などを発表し、後半には子供たちからの質問が飛び出し、石井長官や、伊藤室長（環境庁）、また審査員の先生方が回答下さいました。最後に各テーブルから意見を一つずつ採択し『子どもアジェンダ21』宣言書にまとめ、子供たち全員のサインをして石井長官に手渡しました。

# 子どもアジェンダ21宣言書

## 第4回「アジア子ども会議」

<p>3 環境を 保護しよう 環境を 清潔に 保ち て</p> <p>朱一飞 崔穎 Sona Jotsu Akshay Khatri Apinani Uthalpalsanwong 小林 優 椛島 郁里 福島 琢也</p>	<p>2 強い意志を持って 美しい地球を つくろう</p> <p>Guptha Nareswari Riska Inel Fiteaia ਸ਼ੇਖਰ ਸਿੰਘ 寺島 瑞実 장우정 강유미 椛島 莫史 鈴木 茉莉子</p>	<p>1 地球を 好きになること 始めよう</p> <p>小林 聖典 村瀬 玄悟 高橋 万寿 扇原 相子 長谷川 顕子 齋藤 久美 牧野 友香 上野 智子</p>
---	--	---

主催 地球子どもクラブ  
平成9年7月31日

# 懇 親 会

日 時 1997年7月31日(木)  
午後4時45分～6時00分

場 所 如水会館 さくらの間

作品発表	高田宮賞	『ゴミと護美』	椛島 英史
		『この土地は誰のものか?』	村瀬 玄悟
	特別賞	『青桐の思い出』	ツウ・イーフェイ/中国

作文コンクール高田宮賞受賞の椛島英史さんと村瀬玄悟くん作品を朗読してもらいました。また会場内には「ポスターコンクール」の優秀作品を展示しました。

井田敏夫専務理事の挨拶で懇親会が開催し、今期から地球こどもクラブ理事にご就任いただいた岡崎友紀さんにご挨拶いただきました。乾杯の音頭を江森陽弘審査委員長(理事兼任)をお願いいたしました。

会場には高田宮両殿下に御臨席を頂き、各国の子供たちとご歓談いただきました。子供たちは、国境を意識せず身振り手振りでの会話を楽しみ、アドレスの交換など、交流を深めていました。前日の環境視察から一緒に行動してきた子供たちは、閉会の時間になると、泣きながら別れを惜しんでいました。

# 環 境 視 察

日 時        1997年7月30日(水)  
              午前8時30分～午後17時30分

見学場所    大井清掃工場  
              水の科学館

授賞式・アジア子ども会議に先立ち、出席者は都内環境施設の見学に出かけました。作文コンクール各国の入賞者、ポスターコンクール入賞者が参加し、大型バスに乗車し出かけました。あいにく東京は雨模様だったのですが、みんな元気に出発しました。

子供たちを内外混合のグループに分けて見学させ、車内での交流も見られました。清掃工場では、見学コースを1時間以上かけてまわり、職員の方の説明をメモを片手に熱心に聞いている姿や質問する真剣な眼差しが印象的でした。

水の科学館は、体験型の学習スペースで、水に関するいろいろな実験やアトラクション、探検ツアーなど、子供たちは楽しみながら水に関する知識を深めていました。

以上